『漢武帝の愛』東と西：漢詩の英訳

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 浜松医科大学 公開日: 2013-08-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 櫻井, 信夫, 大木, 俊夫, Alexander, Martha Lee, 呂, 泉生 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/191

浜松医科大学紀要　一般教育　第4号(1990)

『漢武帝の愛』　東と西：漢詩の英訳

櫻井　信夫*・大木　俊夫**・Martha Lee ALEXANDER***・呂　泉生****
*名誉教授・**英語・***英語・****実践家政専科学校音楽科前主任教授，台北，台湾，中華民国

East and West : An Experiment in Poetic Translation (2)

Nobuo SAKURAI*, Toshio OKI**, Martha Lee ALEXANDER*** and LÜ Chyuan-Sheng****
*Professor emeritus ; **English ; ***English
****Professor emeritus, Department of Music
Shih-Chien College of Home Economics,
Taipei, Taiwan, R. O. C.

Abstract. This is the second effort in translating old Chinese poems. The poems that we have translated into English in the first section partly tells us what miserable lives the people under the rule of Emperor Wu in the Han Dynasty were forced to lead. Fathers, sons and hushands were being driven to war like cattle. Our reading of the poems is mainly based on Shiji (Historical Memoirs) by Sima Qian (145-?86 B.C.), the greatest historian in Han Dynasty. He angered the Emperor for defending a disgraced general and was condemned to death, but later the punishment was mitigated to castration. His vivid description of the Emperor's inhuman cruelty must also have angered the Emperor. The work was partly altered and rewritten by his followers. We assume that our reading of the poems in the first section partly reveals what was veiled by the alteration and rewriting.

The poems in the second section, written by the Emperor himself tell us that the cruelest Emperor had a deeply human love only for Li, one of his wives even after her death.

はじめに

著者の一人櫻井の旧制中学時代三年からの国文学教師F先生との出会いや先生の唐詩の英訳，念詩或いは唱詩による原詩観賞については，前回の小論に記載した。[1)]　先生は唐以前の詩にも以後の詩にも触れることは無かった。なぜ唐詩でなければならなかったかは，折りに触れて聴くF先生の懇切な漢詩英訳の説明の中から中学三年の少年が汲み取り納得する余裕は無く，疑問の儘に残された。同時期，先生はまた歴史の勉強を勧められた。国史（日本史），東洋史，西洋史，の他に朝鮮史，台湾史は小史ではあったが興味深いものであった。此のような歴史の勉学を通して，国家の興亡の由って来たるところ，民族間の差別意識の齎らすもの等へ眼を向けさせようとしていたのではないか。

Ｆ先生は，「シナの歴史の記載には嘘が多い。しかし，李白や杜甫のような在野詩人は野に在っては嘘をつかなかった。」とも言った。戦前北京駐在公使をしておられた遠藤秀造教授も，「北京時代の日本の友人佐久間清氏は，『シナ人は嘘を書くが，詩だけは心を語っている』とよく話して居た。」と同様のことを言っておられた(1989,私信)。

Ｆ先生がなぜ其の際，「野に在っては」と殊更に付け加えたのかに就いては，其の当時は聞き流してしまった。しかし，李白にしろ杜甫にしても史大夫への憧れを持っていたのであり，たとえ僅かな期間であっても宮廷の名目的微官に任命された時の喜び，得意さは其の当時の詩に残されている。そして，其等の詩は社会の底辺に生きる庶民の心情を詠じるものではなかった。先生は，当時の彼らの複雑な心理を漠然と指摘していたのかも知れない。彼等が官吏として生きる望みを絶たれた時，庶民の言葉で詩を詠んだのであった。特に，杜甫の詩は詩史と云われ，庶民の悲惨な歴史を綴っている。

我々の主として史記などに基づく漢詩英訳の小論も，詩の中に記載された歴史から離れることは出来ない。むしろ其等を踏まえて，初めて詩の真実に触れ得るものと考える。とは云え，詩の解釈の中で述べる歴史的事項が直ちに総て歴史的事実であると云うものでは無い。しかしながら，其等に就いては史記等の記載を参照して検討した。

我々の此の英訳の試みに，これ迄の櫻井，大木，Alexsanderの３人の他，中国古典からの詩の作曲で知られる台湾在住の呂が参加した。全く専門を異にし，しかも，誰一人として漢詩，漢史の専門家のいない我々四人の協同作業を記述し，大方の御叱正を得たい。

第１章　英訳漢詩の背景：漢武帝時代と庶民

武帝と司馬遷

高祖劉邦が秦及び項羽を倒し漢王朝を建国(前206)して約60年後(前142)即位した漢第五代＊皇帝が武帝で，漢帝国の基礎を確立，儒学を奨励し，文教を弘め，国内を安定させた後，閩越・南越（福建，広西，広東省）朝鮮を征服し，匈奴と戦い，拡張政策をとった。[2)3)4)]　＊第七代とする説もある。[3)]　武：劉徹の諡号(おくりな)で，荒々しい戦いの皇帝の意。　史記は，王室関連の記録を掌どる太史令司馬遷が，太古より漢武帝朝に至る二千年に亙る中国史を彼独特の紀伝体と云う個人の伝記を中心に歴史的事績の変遷を記述した。[5)]　彼は漢族の特性として個人主義であって国家という観念を認めておらず，王侯と部下との関係も今で云う個人対個人の契約と考えていたように思われる。易姓革命と云う思想は，復古を掲げる場合でも，実際には王朝の伝統，歴史の断絶であり，国家としての連続性の否定を前提としている。彼は，武帝への批判と怨恨と何れが先かはわからないが，国家否定の冷徹な史観を維持していたようである。

真実と正義とを重んじ，近代的とも云える誇り高い個人主義的な司馬遷は，武帝から下問さ

れた時，力尽きて匈奴に降伏した武将李陵は武帝との契約を充分に果たしたと考えたのであろうか，李陵を弁護し，彼の降伏により其の三族（親，兄弟，妻子関係の親族）を皆殺しの刑に処すべきでないことを上奏し，武帝の怒りをかって投獄された。続いて，李陵が敵側に寝返ったと云う報告が伝えられ，武帝の怒りは増幅されて死刑が宣告された。死を選ぶか，屈辱に満ちた生殖器切断と云う「宮刑」を選ぶかの瀬戸際に立たされた司馬遷は，真実の歴史を書くべく後者を選んだ。[6)]　間もなく，李陵が寝返ったと云う報告は誤りであることが判明した時，司馬遷はもはや漢武帝朝の史官としてではなく，武帝をも含めて王侯貴族の行動に対しても人間は如何に生きてきたか，如何に生きるべきであったかと云う客観的観察者の立場から仮借無く記述する歴史家に変貌した。一度は死の淵に立たされた彼には，武帝の激怒も怖れるものではなく，むしろ深い「怨恨」を篭めて，人間として一たび最高実力者，権力者の地位につくと，其等の者は其の地位に執着し他人を信用しなくなり，権勢欲を満足させる為には如何に暴虐無道な行動をとるか，彼等の言葉が如何に虚偽に満ちたものであるか，そして其れゆえに尚更信頼すべき者を見出だせなくなって，どのように孤独の中に立たされて行くかを記述した。

漢王室及び其の取り巻きの追随者達は，司馬遷の激しく真実に迫る記述ゆえに，其等の幾篇か幾箇所かを削除・破棄し，或いは他の者に改変させざるを得なくなった。武帝と雖も，過去の王室のみならず現に彼自身の暴虐無道な事績にも容赦無く筆誅を加える司馬遷の死を賭した筆致の裏に，宮刑と云う生き永らえるには余りにも屈辱に満ちた刑罰への憤りと怨みとが存在することを知っていたのに違いない。再び死を宣告すること無く，書き上げられた歴史の破棄・改変と云う姑息な手段にとどまったのであろう。武帝が臣下の者に怖れ，後悔と云った遠慮の念を抱くと云うことに疑問の意見も聞かれるが，武帝の深層心理を考えること無しに，再び死刑にしなかった事実をどのように説明出来ようか。司馬遷の原著になる武帝紀は無い。

文献，記録を冷徹に選択し個人的視点を明確にして記述された史記は，中国における最初の偉大な歴史書であると同時に最初の偉大な文学的作品であったと云えよう。

武帝の時代と一般大衆

史記は，文献を駆使すると共に近い時代の事績については，漢王一族及び其れを取り巻く追随者達の行動を実際に見聞した人々の情報をも充分に調査したものであろうか，其の中に潜む本性を巧に暴き出している。彼等の猜疑心や其れに基づく残虐さは，現代の我々の想像を越え，嫌悪の念を催す。元鼎4年（前113)，武帝が突然黄河の東の地方に巡幸した際には，準備の整わなかった3人の太守が自殺したり死刑になり，其の他少なからぬ人々が殺されている（平準書)。武帝の残虐性を示すものである。漢の初代皇帝高祖の残虐性もまた凄まじいが，嫉妬に燃えた彼の妻呂太后の残忍さは，其の高祖をして若い戚夫人に生ませた我が子趙王如意の将来を，自分に敢えて諫言する誠実な部下周昌に守らせようとした程であった。しかし，彼女が夫高祖の死後，趙王を毒殺，其の若い夫人の手足を切断し，眼を刳り抜き，耳を焼き潰し，唖薬を飲ませ，「人豚」と呼んで便所におき汚物をかけさせたと云う記載は，読む者の眼を蔽わし

める。呂太后の実子孝恵帝は実の母の此の暴虐無道な行ないを見せ付けられた後，政事を投げ捨てて酒に溺れ淫楽に耽り，二十三歳にして世を去った（呂后本紀）。此の種の残虐な行為は，時と処とを異にして現代に至るまで記載，実見されている。[7] 司馬遷の記述が彼が基礎資料として採用した文献の記載を引用したものであったとしても，彼の冷たい批判と天下を取って成り上った王室一族の傲慢非道な行為への憤りが篭められているのを感じない訳にはいかない。

此のような外科的手術を二千年以上も前に実施し得たかという疑問も有るが，司馬遷自身が「宮刑」と云う生殖器切断の刑から恢復して居るのであり，其れより約九十余年前の外科手術に就いての文献を，彼が自信をもって引用したと考えるべきであろう。

専制君主の暴虐勝手な脅しに満ちた政治の行なわれた時代に，一般大衆が生きて行くのは容易ではなかった。唐王朝の時代になって，詩人が其の時の王朝を風刺するには，漢王朝に事寄せて詩を作った。白居易が玄宗皇帝と楊貴妃との恋を，漢王の事績として「長恨歌」に謡い上げたことは良く知られている。杜甫の「兵車行」もまた漢王朝に事寄せて玄宗を批判している。[8]

実際に唐代の詩に詠まれている庶民の苦しみが現代の庶民の苦しみに通ずるものでもあることを知る時，唐代の詩人が書いた漢代の事績もまた記述を裏付ける資料が有り，漢王朝に事寄せたとは云っても，全くの虚構を書いたのではなく，時代区分を修飾したものと考えるべきではないか。ただ，このような鋭い風刺を篭めた詩の作者が刑罰に処せられなかったことに，唐代の皇帝達が詩と云う文化をどのように尊重していたかに留意すべきであろう。現代に残されている玄宗の絵画詩歌を見れば，彼が身に付けた教養の水準を理解しえよう。とは云え，其等は当時の栄華を支えた庶民の苦しみとは全く無縁のものであった。

兵車行　　**杜　甫**

車轔轔・馬蕭蕭　　行人*弓箭各在腰
耶嬢*妻子走相送　　塵埃不見咸陽橋*
牽衣頓足攔道哭　　哭聲直上干雲霄
道傍過者問行人　　行人但云點行頻

或従十五北防河*　　便至四十西営田*
去時里正與裹頭*　　帰来頭白還戍邊*

邊亭流血成海水　　武皇開邊意未已

君不聞
漢家山東*二百州　　千村萬落生荊杞
縦有健婦把鋤犂　　禾生隴畝無東西

況復秦兵耐苦戦*　　被驅不異犬與鶏*
長者雖有問　　役夫敢申恨
且如今年冬　　未休関西*卒
県官急索租　　租税従何出

信知生男悪　　反是生女好
生女猶得嫁比鄰　　生男埋没随百草*

君不見青海頭　　古来白骨無人収
新鬼煩寃舊鬼哭　　天陰雨湿聲啾啾*

Bīngchē Xíng　　Dù Fǔ

(Chinese pronunciation)

chē línlín · mǎ xiāoxiāo　　xíngrén gōngqìan gè zài yāo
yé'niǎng qīzǐ zǒu xiāng sòng　　chén'āi bújiàn xián'yáng qiáo
qiānyī dùnzú lándào gū　　gūshēng zhíshàng gān yúnxiāo
dàopāng guòzhě wèn xíngrén　　xíngrén dàn yún diǎnxíng pín

hùo cóng shíwǔ běi fáng hé　　biàn zhì sìshí xī yíng tián
qùshí lǐzhèng yǔ guǒtóu　　guīlái tóu bái hái shùbiān

biān tíng liúxuè chéng haǐshuǐ　　Wǔhuáng kāi biān yì wèiyǐ

jūn bù wén
hànjiā shāndōng èrbǎizhōu　　qiāncūn wànlè shēng jīngqǐ
zǒng yǒu jiànfù bǎ chúlí　　héshēng lǒngmǔ wú dōngxī

kuàng fù qínbīng nài kǔzhàn　　bèiqū bú yì quǎn yǔ jī
zhǎngzhě suī yǒu wèn　　yìfū gǎn shēn hèn
qiě rǔ jīnnián dōng　　wèi xiū guānxī zú
xiàn'guān jí suǒ zū　　zūshuì cóng hé chū

xìn zhī shēngnán è　　fǎn shì shēngnǚ hǎo

shēngnǔ yóu dé jià bǐlín　　shēngnán máimò suí bǎicǎo

jūn bújiàn qīnghǎitóu　　gǔlái báigǔ wúrén shōu
xīnguǐ fányuān jiùguǐ gū　　tiānyīn yǔshī shēng jiūjiū

A Song of Chariots Going to War　　Du Fu

Chariots roll, horses neigh,
Soldiers carry their bows and arrows on their belts.
All of their families follow behind them;
The dust they raise covers Xian'yang Bridge.
Clutching the soldiers' sleeves, stamping their feet,
and blocking the way, they cry,
Their wailing sounds soar above the clouds.
Bystanders ask, "Where are you going?"
But the men only say, "We are called to the front."

A boy of fifteen went north to shield the Huanghe,
And still at forty went west to cultivate the military farms.
The village leader wrapped the boy's head in a black cloth when he left;
He returned from the border with the hair turned white.

All along the border, blood flows like the sea,
But Emperor Wu will never stop until he is victorious.

Haven't you heard the secret grumbling
Across two hundred districts of the eastern Han,
Nothing grows but briars and weeds in a thousand villages?
Even if the robust women were there with their hoes,
Millet would overgrow the farm and furrows would be hid.

No doubt about the soldiers of Qin (Chin) having to fight against all odds.
They are treated like dogs.
Although their leaders ask for their complaints,
Dare they express their resentment?

Even this year's severe winter
Does not stop the battle in the west.
County Magistrates constrain the people,
Worrying about how to levy taxes.

Truly, having sons is now a matter of sorrow,
While having daughters is a cause for joy.
Girls can marry and live close at home,
While boys may lie buried among the weeds.

Think of the shore of Lake Kokor Nor in far western Qing'hai!
From olden days, who has gathered the bleached bones from the field?
New ghosts writhe in agony and the old give out low moans,
Under a dark sky, wailing is heard in the rain.

＊行人：出征兵士。王維の「従軍行」に“吹角動行人　喧喧行人起”（角笛が出征兵士に出動を知らせ，兵士達はがやがやと立ち上がった）とある。

＊耶嬢：爺嬢，父母の俗語。　＊塵埃不見咸陽橋：乾期の黄土地帯では風が吹くと，眼も開けられぬ程の土砂が舞い上がる。下雨は雨が降ることであるが，土砂が降る“下土”と名付けられた気象現象が現在も観察される。日本で春先，平年で三月，年により二月から西風の強い日に観測される黄砂現象は黄土地帯で吹き上げられた土砂が卓越偏西風(ジェット気流)に乗って日本列島まで運ばれてくるものである。人々が舞い上げる塵埃によって橋が見えないと云う表現は，決して誇大なものでは無い。　＊ 咸陽：賈島は「度桑乾」で“帰心憶咸陽”（長安に帰りたい）と詠んでおり，詩に於いては咸陽（秦の旧都）をもって長安を指していることが少なくない。咸陽橋は長安の渭水に架かる橋。

＊河：黄河。　＊営田：唐の玄宗の時，軍隊に食糧を供給する為に屯田法を行ない，一人当たり十畝を授けた，と云う。[9]　古くから下級兵を農耕に従事させたのであろう。　＊去時里正與裹頭：村から本人の意志とは関係無く兵士を送り出す時，大人，子供と年齢は問わず，割り当てられた人数分の男の頭を布で包んで，十五歳に達して元服が済んでいると村長が証明したのである。“耶嬢妻子走相送・・牽衣頓足攔道哭”と妻子が嘆き悲しんだのは，十五歳の少年の妻子である筈がない。唐時代には，行人を実年齢と関係なく十五歳に達して成人したものと見做すことが常識になっていて，杜甫が詠んだものと考えるほうが妥当であろう。劉邦が項羽と戦い，敗れて損害を受けた時，“漢王入関収兵”，“漢王行収兵”，“漢王跳。乃北益収兵趙地”（漢王は逃げ，北の趙の地方からどんどん兵を徴収し）と随所で兵を狩り出している（高

祖本紀)。兵士を出さなければ一村全部が殺された筈である。漢代の呼び名は判らないが，此のような兵士を現在は子弟兵と呼んでいる。子弟兵は自分の生命の為にのみ戦う。逃亡しても殺されないと判断したら逃亡し，戦いに勝たなければ自分の生命を守れない場合には徹底的に戦う。

＊山東：華山の東の秦の地方（山西省）で，現在の山東省とは違う。

＊況復秦兵耐苦戦：高祖は徴収兵が命令に従わなければ，一村を皆殺しにして絶対服従を強制し，苦戦に耐え得る秦兵を作り上げたのであろう。　＊被驅不異犬與鶏：しかし，彼等は消耗品でしかなかった。　＊帰来頭白還戍邊：無事生き延びて故郷に帰れても，還戍邊，再び辺境の第一線に連れ戻され，生涯子弟兵でなければならなかった。

＊関西：通常は函谷関の西を指すが，此の詩では玉門関の西の青海地方を指している。

＊生男埋没随百草，＊天陰雨湿聲啾啾：死ぬまで扱き使われる子弟兵の運命を嘆く詩句を繰り返し，其の怨みを強調したものであった。

著者の一人櫻井は，1989年5月中旬，中部，関東地方の連鎖店の浜松市内にあるT-D書店に中国関係の本を求めにいった時，書店の一婦人が“北京の天安門広場に集った学生市民達によって中国が民主化出来るでしょうか？”と聞いてきた。“いや，軍閥が潰して権力を握り，それが切っ掛けになって4，5年以内に共産主義体制は崩れるでしょう”と答えた。6月4日天安門広場の学生市民が人民解放軍に自動小銃の水平射撃，戦車等で次々に虐殺された時に，彼等が“これは人民解放軍ではない。子弟兵だ”と叫んでいたことを現場にいた新聞記者が報道している。しかし，記者自身は子弟兵とは軍関係者の子弟がなった兵士であると受け取ったのか，此の言葉の意味の重大さに気付かなかったようで，其れ以上論及していなかった。先の大戦での日本の降伏後，大陸から台湾にきた下級兵士達の大部分は子弟兵であった。其の一人は故郷に居たとき映画を，他の一人は芝居を見に野掛け小屋に行き，小屋（実際には拉夫－強制徴兵－の為に仕掛けられた罠）は兵隊に取り囲まれ，出て来た時には老人以外の男は捕まって頭髪を剃られ坊主頭にされた。逃げても直ぐ見つかって軍服を着せられ，服に貼いていた名札，其のポケットに入っていた身分証明書の住所氏名年齢が其れ以後彼の身分となり，実年齢とは関係なく拉致された者全員が二十歳にされた，と云う。杜甫が千二百年前，去時里正與裹頭と「兵車行」の中に書いた詩句は，現代にも適合した。

前述の書店での櫻井の答えは，史記及び此の詩等の記載を考えていたものであった。換言すれば，史記の記載は杜甫の詩句を裏付けて権力者の意の儘に苦しむ漢代，唐代の庶民の生活を伝え，其等はまた，現代中国の事績を予言するものでもあったと云えよう。共著者呂泉生の「五月康之馨」（五月のカーネーション）と云う歌曲は，年老いた子弟兵が台湾で見聞した五月第二日曜の母の日に，胸に赤いカーネーションを付けて，故郷で必ず私を待っているに違いない母に会いに行くのだと叶わぬ望郷の嘆きを歌うものであった。別の機会に歌曲と英訳の検討を

するであろう。

中国の正史は，暴政，戦乱，旱魃等災害の中に巻き込まれた庶民の苦しみを記述せず，詩のみが真実を書き残している。其等のうち，杜甫と白居易と云う境遇的には対照的な二人の詩作の中の骨肉流離の嘆きは，唐代のみならず，漢代の，更には時代を超えて今もなお繰り返されている人間の流離の嘆きを歌っていると云えよう。

月夜憶舎弟　　**杜　甫**

戍鼓断人行*　　邊秋一雁聲
露従今夜白*　　月是故郷明
有弟皆分散　　無家問死生
寄書長不達*　　況乃未休兵

Yuéyè yì Shèdì　　**Dù Fǔ**

shùgǔ duàn rén xíng　　biān qiū yí yàn shēng
lù cóng jīnyè bái　　yuè shì gùxiāng míng
yǒu dì jiē fēnsàn　　wújiā wèn sǐshēng
jìshū zhǎng bù dá　　kuáng nǎi wèi xiū bīng

Thinking of My Younger Brothers on a Moonlit Night　Du Fu

Drumbeats from barracks inform us of the curfew on our streets,
Flying across the border in late autumn, a wild goose cries.
The glittering dew will be frosty from tonight;
My distant home should be bright under this moonlight.
All of my brothers scattered throughout the land, ah!
Can't anyone tell me if they still live?
I write them often, but my letters don't arrive;
War rages through the country.

＊戍鼓断人行：中国の都市は城壁で囲まれており，辺境の小さな町も軍隊が駐屯していれば城である。したがって，城すなわち町であり，夜城門を閉じ，人々の通行を禁止するのは兵営からの太鼓の音である。

＊露従今夜白：陰暦九月八日を廿四節季の一つ白露という。此の頃は現在の十月中旬に当たり，大陸中国の内陸の気温は氷点下に下がる。露の粒は凍り小さいレンズとなり，月光に白く

輝く。1989年10月17日早朝宇都宮東部初霜，家々の屋根，路上駐車の窓ガラスの露が凍り，此の詩の「白露」の意味する処を実際に示していた。

＊寄書長不達：杜甫は「春望」で“国破山河在・・家書抵萬金”と，家からの手紙は萬金の価値があると詠んでいる。寄書は差し出した手紙。

杜甫，48歳，粛宗乾元二年（759）秦州（甘粛省天水）で此の詩を作る。当時，史思明の反乱軍が洛陽に迫り，しかも長安一帯は旱魃の為大飢饉に襲われ，彼は家族を連れ秦州に逃げた。二人の弟は分散し，生死不明であった。此の後，杜甫は秦州から四川に移り，是より代宗大暦五年（770）に没する迄の漂泊の生活が始まるのであった。

望月思親　　白　居易

（自河南経乱関内*阻饑兄弟離散各在一処因望月有感聊書所懐）

時難年荒世業空　　弟兄羈旅各西東
田園寡落干戈後　　骨肉流離道路中
弔影分飛千里雁　　辞根散作九秋蓬*
共看明月応垂涙　　一夜郷心五処*同

Wàng-Yuè sī Qīn　Bó Jū-yì

shí nán nián huāng shìyè kōng　　dìxiong jīlü gè xī dōng
tiányuān guǎ lào gāngē hòu　　gǔròu liúlí dàolù zhōng
diào yǐng fēn fēi qiānlī yàn　　cí gēn sàn zuò jiǔqiūpéng
gòng kàn míngyuè yìng chuílèi　　yíyè xiāngxīn wǔchù tóng

Thoughts of My Family While Gazing at the Moon　Bo Ju-yi

(Because of the war in Henan and the famine in Guannei, my brothers and sisters have dispersed.　While gazing at the moon, I described my thoughts of them in this poem.)

Hard times, famine years, and lost heritage,
All of my brothers dispersed eastward and westward.
Our fields and gardens were ruined by the war,
My family wandering on the roads in strange districts.
I talked mournfully to my shadow, isolated
　　like a lone wild goose flying many miles off course.
We drifted apart like tumble-weeds in autumn.

It's sure all of us gaze through tears at the same moon,
Longing with one wish for the old home from five different points.

＊関内：函谷関内の山西，陝西省を指す場合と山海関内の華北平原を指す場合とある。山西，陝西省内に領地を与えられた諸侯を関内侯と謂って皇帝に最も信頼されたものと見做された。但し，此の詩では後者と解した方が良いかもしれない。

＊辞根散作九秋蓬：秋に根元から折れ，風に吹き飛ばされて球状に丸まって転がって行く枯ヒユ，アカザ等のように，離散してしまった。九秋，初秋，中秋，晩秋の九十日を九秋と呼んだ。

＊五処：白居易，44歳の時，憲宗元和十年（815），此の詩を江州（江西省九江）で作る。当時，一族兄弟は江州の他，江西（浮梁），浙江，安徽，陝西の五箇所に離散していた。

杜甫は進士の試験に合格せず，40歳を過ぎて形式的微官で宮中に勤務することが出来た。しかし，戦乱と飢饉のため，家族を連れ漂泊の旅に出，止むことなく続く戦乱に妨げられ故郷に戻れず，旅に死んだ。他方，白居易は若くして進士の試験に合格し，杭州太守の時に西湖の堤防を修築，千年後の現在でも白堤と名付けられて人々の役に立っている。彼は刑部尚書（法務大臣）まで，官吏として要職を歴任しただけでなく，二千二百首の厖大な白氏文集を残し，我が国の平安朝文学に最も大きな影響を及ぼした詩人である。[10~12)]

彼等二人は，それぞれ境遇は異なるが，一般の庶民よりは恵まれた生活が出来たのにもかかわらず，どちらも戦乱と飢饉による一族離散の悲しみを謡っている。文化的に発達した唐時代に於いてである。更に激しい戦乱の中にあり，より残虐な皇帝たちに支配された漢代の庶民の生活が更に惨めであったことは疑いない。

戦乱と飢饉は，中国史の全ての事績の背景になっていると言える。漢代から現代に至るまで，我々の理念を超える虐殺の記録は尽きない。何故此の時虐殺したのかと云う疑問が常に投ぜられる。此の中国の虐殺の論理，虐殺の思想は，何れの時代に於いても当時の食糧生産に対比して多すぎる人口との乖離から派生したのではないかと考える。其れと同時に，自分で飼育する家畜類を自分で殺し，血液まで徹底的に利用するという食肉文化に根差した生活習慣からも，生命を奪うことに抵抗を感じない，或いは，無感覚になる風潮が醸成されたように思えるのであるが，如何であろうか。

史記（項羽本紀）に，楚軍（項羽の軍隊）が秦軍を撃破した時投降兵二十万人を河南省新安城の南の穴のなかで皆殺し（坑殺）にし，また（高祖本紀），漢（劉邦）軍が楚（項羽）軍を撃破し追跡した時，騎兵隊が斬首した数が八万，と記載されている。戦意を無くした兵士たちをこんなにも虐殺したのは何故か？　勝利軍に，投降兵に与える充分な食糧の余裕がなかったからと考えると，此の場合の大量殺戮の論理は直截的に理解されよう。史記は，多数の敗軍

将兵を始末する手段としての坑殺が項羽の楚軍だけのものではなかったことを記載している。此のような行為の裏にある，食糧と兵力のバランスに留意すべきであろう。項羽は兵力の遭遇戦で劉邦に勝ち，戦いの結果の宣伝戦で破れた。

劉邦は戦いに破れるたびに，自分の領国でもないところから多数の兵を徴集した。当時は領国民全てが兵役の義務を要求されたのかもしれないが，其れとて武力を有するものの一方的な押し付けでしかない。まして，領国でもない処では，従わなければ大量虐殺の脅迫で兵を集めたものであろう。こうした虐殺の思想が，罪人の三族皆殺しと云う苛酷な連座刑を可能にしたのであろう。漢武帝は最愛の李夫人の死後の彼の晩年（征和三年）に，夫人の兄李広利が匈奴に降伏した時，躊躇することなく其の三族を皆殺しにしている。巨大な人口の中の十万や百万を殺しても問題にならないと言い切る現在の最高実力者の論理は，其の人が飢饉を経験していれば尚更，自分自身が納得しさえすれば反対を認めない。農民出身の漢王朝初代皇帝高祖が重農主義的な政治を行なったと同時に，甚だしく残酷であったのも其の為であろうし，現代とて残酷さの背景は変わらない。

第2章　漢武帝の孤独な愛

武帝と李夫人との出会い

漢帝国の基礎を確立し，版図を拡張し文化面でも飛躍的な発展を齎らした武帝の，淫楽に満ちた生活＊と，憑かれたような重なる神仙遍歴も，近付いてくる老いと死への恐怖からの不老長寿の願望の表れと考えられよう。　＊白居易は「長恨歌」の中で玄宗を指して漢皇と呼び武帝に置き換え，“漢皇重色思傾國”（色好みで美人を求めた）と詠んだ。其のことに就いて，司馬遷は史記に，「武帝は長安郊外の覇水の祭りの帰りに姉の平陽公主（内親王）の家に寄った。そこで，用意されていた美人十余人を見たが，どれも気に入らず，酒宴の席で踊り手の奴隷女に興味を示した。武帝が厠にいった時，公主が彼女を更衣の手伝いに行かせたら，たちまち厠の中で愛を受けた」と記載している（外戚世家）。彼女が後の衛皇后（帝の晩年に廃位，賜死）である。武帝，時に十八歳。此の箇所の原文の筆致は冷たく，司馬遷の怨念と軽蔑とを感ずる。

史記封禅書に，武帝が不老不死を願って丹砂（硫化水銀）をいじり，恐らく丸薬を作って服用したことを推定させる記載が有る。晩年の著しい情緒不安定は，老人性痴呆の始まりだけでなく，慢性水銀中毒の関与の可能性をも疑わせる。司馬遷は封禅書に武帝の神仙信仰を恭しく記述することで，帝への揶揄，軽蔑を巧に表現している。

李延年は，元来芸人で，生れ付き音感にすぐれ歌を善くして武帝の寵愛が篤かった。また，西域からの歌舞音曲の旋律を採り入れた新曲や新声変奏曲等を作り，帝に非常に喜ばれた。彼には美しく気立ての優しい歌妓の妹がおり，彼女を宮中に入れることで自分も出世出来ると考え，前以て“佳人の歌”を作り，機会を待っていた。元封六年（前105）又は太初元年（前104）

の或日，平陽公主の邸宅に武帝が立寄った。彼は，宴会の席上自ら起って舞いながら其の「絶代佳人」の詞曲を歌った（漢書，外戚伝)。帝は此の歌唱を聞いた時，非常に感銘を受け，嘆息して「此の世に此のような女が実際に居るであろうか？」と言った。平陽公主が「李延年に妹が居る」旨を告げた。そこで武帝は延年の妹を召し出した処，実際に，美しく控え目で歌舞に巧みな女性であった。

絶代佳人（佳人歌）　　李　延年

北方有佳人*　　絶世而独立*
一顧傾人城　　再顧傾人国
寧不知傾城与傾国*　佳人難再得*

Juédài Jiārén　　Lǐ Yán-nián

běifāng yǒu jiārén　　juéshì ér dúlì
yí gù qīng rèn chéng　　zài gù qīng rén guó
níng bùzhī qīng chéng yǔ qīng guó　　jiārén nán zài dé

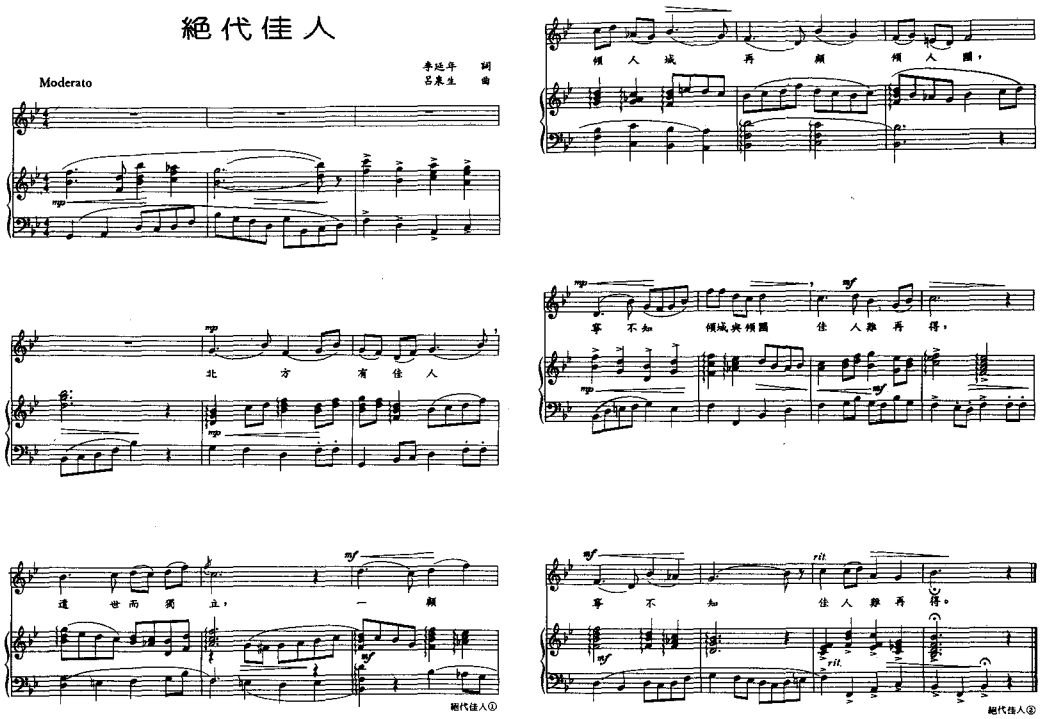
A Great Beauty　　Li Yan-nian

There is a beauty in the nothern region,
Who has no equal among women.
Casting her glance once captures a king's city,
Twice and his country is lost.
He knows the cost of his kingdom,
But will pay that price for a beauty so rare.

＊北方有佳人：李延年は中山（河北省定県）の人であるから，自ら其の妹を北方佳人と呼んだ。

＊絶世而独立：世の中に比べる者が無い程美しいから，世間から独り超然としている。

＊寧不知傾城与傾国　佳人難再得：此のように美しい人に近付けば，持っている全ての物を失うことは知って居るけれども，此のような佳人は再び得ることが出来ないのを如何したら良いであろうか，と反語表現をして，武帝の気を引いたのであった。



武帝に召し出され後宮に入って李夫人と呼ばれた彼女は，武帝の寵愛を受け，男児一人（昌邑王）を生んだが，美人薄命の古諺の通り，若くして早死にした。李夫人が危篤になった時，武帝は直々に見舞いに出向いたが，夫人は布団を被り絶対に顔を見せない。武帝に，「私は長らく病に臥しており，そのような姿で帝にお目にかかるのは礼（禮記）に反することですから，お目にかかれません」と固辞して，顔を見せない。帝が繰り返し顔を見せよといっても，「身繕いをせずしてお目にかかれません。昌邑王と兄弟を宜しくお願いします」と云うだけであった。

武帝が帰ってから，夫人の姉妹が「どうしてあれほど帝が頼むのに顔を見せなかったのか？」と訊ねた時，夫人は，「私は美しい顔貌だけで帝の寵愛を受けた。容色が衰えれば見捨てられる。帝が私の美しかった時の面影だけを思っておられれば，息子の昌邑王と兄弟に目を掛けて下さるでしょう」と答えた。夫人は死に瀕してなお，武帝の愛と共に其の心の中に人の生命を奪うことに何等の躊躇もしない残虐さが共存することを見抜いて，李一族の将来の為に帝の関心を繋ぎ止めようと努めたのであった。夫人の死後，武帝は皇后としての禮を以て夫人を葬り，其の兄李広利は貳師将軍（後に海西侯）に，延年は協律都尉に任じられた。

帝は，何時まで経っても李夫人を忘れられず，斉（山東省）の方士少翁が死者の魂を招くことが出来ると聞いて，其の祭りを執り行なわせた。蠟燭を照らし，二つの几帳を設けて，帝を一方の几帳の中に居らしめた。やがて，ゆらゆらと女の人が現われ，他の几帳の中を歩いてい

る。李夫人のようであった。しかし，帝が近付いて見ることも話し掛けることも許されず，それゆえ尚更，恋しさが増すばかりであった。其の悲しみを“李夫人歌”に詠み，楽府（宮中の音楽所）の音楽家に命じ管弦を演奏し，此の詩を歌わせた。楽府の長官こそ夫人の兄協律都尉李延年であった。彼が西域の旋律を取り入れた悲しみの曲を作ったことは言うまでもあるまい。

李夫人歌　　漢武帝

是耶非耶　　立而望之
翩何珊珊　　其来遅

Lǐ Fūrén Gē　　Hàn Wǔ-Dì

shì yé fēi yé　　lì ér wàng zhī
piān hé shānshān　　qí lái chí

The Song of Li Furen　　Han Wu-Di

Is that you I see?
I'm standing and waiting for you.
Your silk sleeves sway in the wind
and you walk lightly,
But... how slowly you come!

漢書外戚伝は“李夫人歌”の他に帝の「既に往きしものは来らずとも，申(かさ)ぬるに信(まこと)を以てせん(夫人を忘れはしない)」と詠んだ長い賦を記している。(武帝が少翁によって李夫人を見たのは，老人性痴呆の幻視であろうと云う人も居る。白居易は“李夫人”の詩で「又令方士合霊薬　玉釜煎錬金鑪焚」と，丹砂の金アマルガム法による錬金方術で内服用の水銀合剤を作らせ，又夫人にも会ったとしている。中毒を疑っていたか。）　古詩賞析（清，1772）は，拾遺記に記載された“落葉哀蟬曲”を収載している。[13]（此の詩は後人の作ではないかとも云われて居る。）李夫人を思い続けた武帝の切ないまでの思慕を伝える此の叙情詩は，首句に続く三句で，住むべき人の没した後，無人となった宮殿の凄絶さを写し，帝の嘆きの深さを示している。

落葉哀蟬曲　　漢武帝

羅袂兮無聲　　玉墀兮塵生
虚房冷而寂寞　　落葉依干重扃
望彼美之女兮　　安得感余心之未寧

Làoyè Āichán Qǔ　　Hán Wǔ-Dì

lómèi xī wú shēng　　yùchí xī chén shēng
xūfáng lěng ér jímò　　làoyè yī gān zhòng jiōng
wàng bǐ měi zhī nǔ xī　　ānde gǎn yú xīn zhī wèiníng

The Song of the Falling Leaves　　Han Wu-Di

The rustle of your silk sleeves silenced,
Dust accumulates on the jade-stone courtyard.
An aching void in the vacant house, no sign of life,
The fallen leaves settle in heaps,
　　blocking the locked gates.
I look for my beloved.　She is gone.
How can I let her know my anguish?

武帝の詩の中で，日本人に最も善く知られているのは“秋風辞”である。特に其の最後の二句は，出典を知らなくても，また其の表現には色々と変えられたものが見られるが，いずれも多くの人々に愛誦されてきた。

秋風辞　　漢武帝

秋風起兮白雲飛　　草木黄落兮雁南帰
蘭有秀兮菊有芳　　懐佳人兮不能忘
汎楼船兮済汾河　　横中流兮揚素波
簫鼓鳴兮発棹歌　　歓楽極兮哀情多
少壮幾時兮奈老何

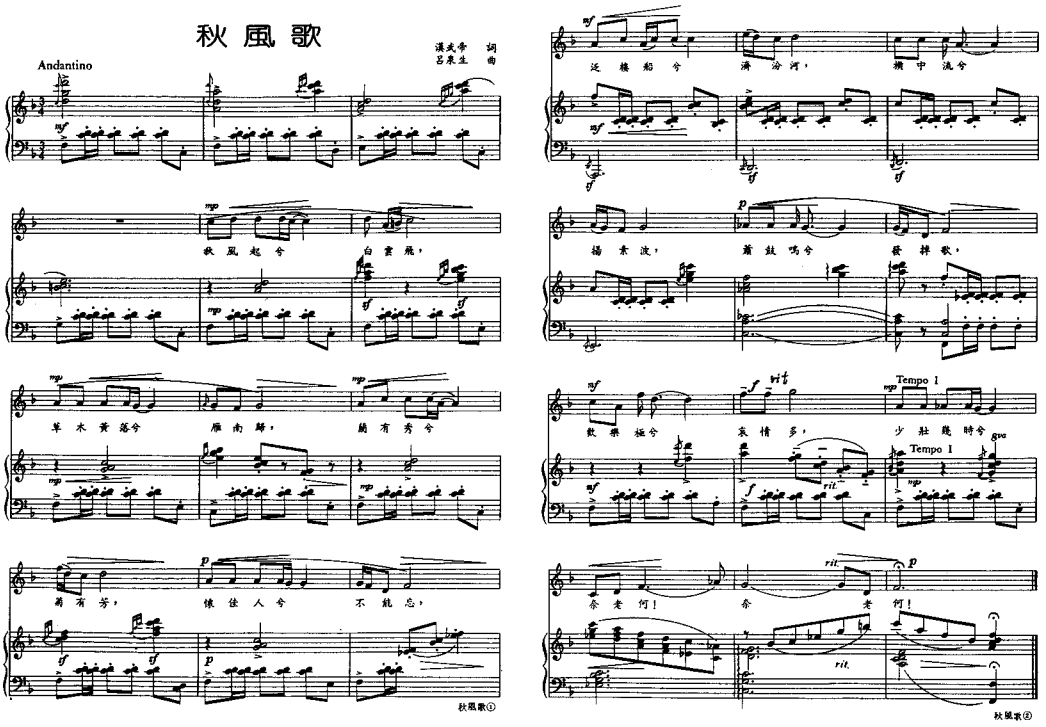
Qiūfēng Cí　　Hàn Wǔ-Dì

qiūfēng qǐ xī báiyún fēi　　cǎomù huánglào xī yán nán guī
lán yǒu xiù xī jú yǒu fāng　　huái jiārén xī bùnéng wàng
fàn lóuchuán xī jǔ fēnhé　　héng zhōngliú xī yáng sùbō
xiāogǔ míng xī fā chǎogē　　huānlè jí xī aīqíng duō
shǎozhuàng jǐshí xī nài lǎo hé

The Song of Autumn Wind　　Han Wu-Di

The gust of autumn wind rises, scattering white clouds,

Grass and trees turn yellow and fade; geese go south.
The air is fragrant with orchids and chrysanthemums in bloom,
Thoughts of my beloved fill my heart; I never can forget.
Sailing on a ship and crossing the Fen River
At mid-stream, white waves appear.
Blowing flutes, beating drums, and chanting boat-songs,
Yet heights of joy turn to deepest lament;
How fleeting is youth and how surely age advances!



此の“秋風辞”の第四句の「佳人」は神女，忠実なる群臣，美女等に解釈されている。また，「漢武故事」（原典不明）は詩作の時期について，帝が河東（山西省）に行幸して后土（地の神）を祀った時（前113），汾河の中流に浮かべた船の中で群臣と酒を酌み交わし，帝京をかえりみて欣然として作ったと記載している（文選，巻45）。しかし，秋と云う季節に，「懐佳人兮不能忘」の句の云う「不能忘」が神女や忠実なる群臣を指して述べたとするのは余りにも白々しい。武帝のような横暴な絶対的権力者が美女を「不能忘」と詠んだとする方が自然であろう。人は誰しも過ぎし日の栄華盛衰の美しい思い出を持ち続ける。人の生命を奪うことに何等の躊躇も感じなかった武帝も五十歳を過ぎて，初めて心から愛する女性を見出だしたが，其れも束

の間の邂逅に過ぎなかった。山西と云う厳寒を間近に控える地方に在る汾河流域では，秋は草木が黄ばんで落葉し，雁が南に帰る季節である。其のような季節の唯中にあって，武帝の思い出の中に現われるのは，李夫人がふさわしい。

愛する女性の死を見詰めて，“李夫人歌”，“落葉哀蟬曲”，そして，“秋風辞”と，昔も今も変わらぬ“愛と限りある生の終焉”の哀惜を謡った武帝は，李夫人との思い出の中で老い先を感じ取ったであろう。其の焦燥と寂寞とが，加齢に伴う痴呆症の逆行する記憶に留まる夫人との幻の恋の中に生き，現実の認識を狂わせたように思われる。

中国の歴史は，昔も今も繁栄と停滞の陰に潜む権力者の斑気(むらぎ)，移り気による暴力を綴っている。不老不死の願望から神仙信仰に取り付かれ，恐らくは丹砂(硫化水銀)の方剤の服用で水銀中毒になっていたであろう年老いた武帝は征和二年（前91）七月，衛皇后と皇太子とが呪い人形で帝を祟り殺そうとしていると云うごろつきの廷臣の讒言にそそのかされ，二人を自殺に追い遣った。間もなく，冤罪であることが明らかになった時，讒言者等を悉く三族皆殺しの刑に処したものの，此の自らの蛮行に対する後悔と悲しみとから，亡き太子を思う宮殿，思子宮を建て，太子の魂を呼び戻したいと願う高楼，帰来望思之台を建てた。此の激しく揺れ動く斑気な情緒不安定は，齢と共に徐々に進んで来た老人性痴呆の特徴を示し，もはや正常の判断が困難になって来ていたであろう。

北方地方で匈奴と戦っていた李夫人の兄将軍李広利にも，此の狂ったような事件と，弟李季が後宮の婦人と姦通したため在京の兄弟一族は悉く死刑に処せられ，将軍の家族も捕らえられたとの知らせが届き，彼は家族の身の上を案じた。部下はもはや，そんな彼の命令に服そうとはしなかった。翌年（前90）六月，戦いに破れた李広利は匈奴に降伏し，まもなく殺された。李夫人が死の直前まで案じていたように，李一族は将軍李広利の降伏に激怒した武帝によって三族すべて死刑に処せられて死に絶えた。

みづから後継者を絶ってしまった武帝は，晩年最後の寵姫鉤弋夫人趙氏が帝の為に生んで呉れた僅か四歳の末子弗陵（昭帝）を太子にしなければならなかった。後元元年（前88）七月，彼は突然其の母親の若い夫人に言い掛りを付け，死刑を命じた。理由も判らぬ儘にひたすら許しを乞うにもかかわらず許されずして引かれて行く夫人が，後を振り返り振り返りして哀願の眼指しで訴えるのを見殺しにした武帝は，側近達に殺害の理由をどのように理屈を付けて弁解しようと，自分の死後も確実に生き残る夫人の若さへの剝出しの嫉妬に駆られた醜悪な老人に過ぎなかった。其の妄想に狂う冷酷無残さに，誰しも激しい嫌悪と軽蔑とを覚えるであろう。夫人刑死の日，暴風が吹き荒れて砂塵を巻き上げた。人々は夫人の死を傷み悲しんで，夜半棺を担ぎ出して葬り，土を盛り上げて其の場所の印とした（外戚世家：褚少孫補記)。次々と近親者を殺して行く狂った老人に仕える側近の人々は，夫人の刑死を傷んで吹きつのる暴風の中で，彼等自身いつ老人の不安定な情緒の嵐に巻き込まれるかも判らない不安に慄えていたに違いない。

半年の後，後元二年二月，神仙無きを悟った武帝は，愛して呉れる者すべてを失い，恐らく李夫人との恋の幻を追いつつ，取り残された孤独の中で死んだ。帝の死後，大将軍霍光は帝の生前の意向に添って，李夫人を武帝と合葬し，孝武李皇后と尊号を奉った。

其の翌年，武帝の死を見届けるかのように「勢あれば則ち賓客は十倍し，勢なければ則ち否（しか）らず」の文字を残して，昭帝の始元元年（前86）司馬遷が死んだ。[4] 天漢二年（前99）武帝により宮刑に処せられて十三年後であった。史記百三十篇を残した。其の内，彼の仮借無き記述により，武帝の怒りと，王室関係者の忌諱とで，目録のみを残して削除，破棄されたもの十篇。後に，孝武本紀他二篇は褚少孫によって補われた。

武帝去って数百年，大唐玄宗朝という中国史上最も繁栄した時代に向かっていた時，武帝の暴虐よりも大漢帝国の繁栄と大帝の悲恋の物語の方に，人々が心を牽かれたとしても当然であろう。万里の遠い旅の途上，武帝が“秋風辞”を詠んだ汾河の畔に立った詩人*は，季節もまた北風が吹き渡り草木が黄ばみ落葉して行く同じ時期に，人生の揺落を感じ取り，其れゆえに，武帝の「歓楽極兮哀情多　少壮幾時兮奈老何」の詠嘆を実感して“汾上驚秋”の詩を詠んだのであろう。

汾上驚秋　　**蘇　頲**

北風吹白雲　　萬里渡河汾
心緒逢揺落*　　秋聲不可聞

Fēnshàng Jīng Qiū　Sū　Tíng

běifēng chuī báiyún　　wànlǐ dù hé fēn
xīnxù féng yáolào　　qiūshēng bùkě wén

The Autumnal Sounds on the Fen River　　Su Ting

Northern blasts rush and white clouds fly,
Crossing the Fen River on the thousand-mile journey.
My heartstrings hum to see withered, fallen leaves,
I can't bear to hear the same autumnal sounds as in Han Dynasty.

＊蘇　頲　(670?-727?):武功（陝西省）の人。高宗の調露二年(680)の進士。則天武后に認められて要職を歴任，また玄宗の信任も篤く，開元四年 (716)宰相となった。

＊揺落：草木が黄ばみ落葉して行くこと。

おわりに

我々の漢詩英訳の小論は，詩の背景の歴史的考察から，漢代の事績が今日的問題に繋がることを見出すものとなった。武帝の詩は，淫乱，残虐な古代皇帝が老年期に入って初めて目覚めた真実の恋も束の間に過ぎ去り，老いとはこんなにも悲しいものなのかと，取り残される限りない寂寥と孤独感とを謡い，今日の老人問題の底に在る心情を示している。更に，生きとし生きるもの誰もが避けられない別離そして死から逃がれようと，恐らくは方剤としての水銀剤服用を続けて慢性中毒となり，徐々に進んで行く老人性痴呆症状を加速して，幻の恋を追い求めて狂って行った孤独な権力者の残酷物語にも及んだ。

それぞれの専門分野も，日，米，華と生活してきた伝統社会も全く異にし，しかも，何れも漢詩，漢史については非専門家の我々四人が，此の漢詩英訳の協同作業を通じて従来とは違った視点を見出し得たように思う。読者の共感を得られれば幸いである。

前回試みた英訳の検討は，別章に記載した。

文　献

1）櫻井，大木，Alexander：東と西：漢詩英訳の試み．本誌，**3**, 59～68，1989.

2）吉川幸次郎：漢の武帝．岩波書店，1949.

3）鈴木俊編：中国史（新版）．山川出版社，1964.

4）三省堂編修所：最新世界年表（新訂版）．三省堂，1954.

5）史記：(a)新訂中国古典選（全三巻）．朝日新聞社，1966～67．(b)筑摩世界文学大系（全二巻）．筑摩書房，1971．(c)中国古典シリーズ1（全三巻）．平凡社，1972.

6）司馬遷：報任少卿書．（a）漢書（司馬遷伝），中国古典シリーズ3．平凡社，1973．（b）梁，昭明太子「文選」．台北，時報出版，1983.

7）Harrison E.Salisbury．三宅真理，他訳：天安門に立つ．日本放送出版協会，1989.

8）白居易：全唐詩，巻 424～460; 杜甫：同，巻 216～234.台北，宏業書局，1982.

9）宮崎市定：大唐帝国．中央公論社，1988.

10）輔新書局：唐詩三百首，再版．台北，陽明書局，1984.

11）邱燮友：新訳唐詩三百首，修訂六版．台北，三民書局，1987.

12）小川環樹編：唐代の詩人－その伝記．大修館書店，1975.

13）岡田正之校訂：張玉穀編，古詩賞析．漢文大系（増補三版）第18巻，冨山房，1978.

別　章

漢詩英訳の検討

本論でとりあげた漢詩の英訳が如何なる検討を経て出来上がったか，その事情の一端を以下に順を追って述べよう。

1.兵車行　杜甫（A Song Of Chariots going to War　Du Fu）

まず冒頭の「車轔轔」の「轔轔」であるが，同語反復（畳語法）が好まれる中国語や日本語の感覚からすれば 'rattle and rattle' のように置き換えるか，これを幾分英語の畳語法に合わせて，rattle and rollのように訳したいと考えるが，'rattle and roll' は，現代の英米語の感覚では，rock music の image が付き纏う。次の「馬蕭蕭」の「蕭蕭」の場合も同様で，'whinny and whinny' や 'neigh and neigh' あるいは 'whinny and neigh' などとせず，'roll' に合わせて 'neigh' 一語で済ませる。ちなみにwhinnyはneigh softly or gentlyの意味であるが，snort, stampと共に使うことが多い。

「耶嬢妻子走相送」の「走相送」は，'walk after them to see them off' ということであるが，これでは散文訳になる。'go behind them' でよいが，'follow behind them' で十分その意味が表わされ，しかも主部のfamiliesとalliterattionをなす。

「点行頻」の「頻」は，often,　frequentlyということであるが，兵士が英語で答える場合には，不要である。

「営田」は，本文中の註で記した通り，中世シナの法律用語である。したがって，'to cultivate the military farms' が最も忠実な訳であろうと考え，採用した。しかし，ここのところは，筆者らが何度も議論を重ねたところのひとつであり，解説を付さなければ英語圏の人たちには，理解不可能と言う結論に至った。「屯田兵」は，和英辞典が示しているように 'a farmer-soldier, farm soldier' などと訳せるであろうが，「西営田」を 'went west to cultivate the military farms' 'went to the west as a farmer-soldier' としても，英語のfarmで働くということには，平和時の仕事というイメージが強過ぎて，兵役の意味にはとれず，意味の矛盾が起こる。矛盾を避けるには，兵役で西方に出かけた，ということにして，'As a man of forty, still under orders, he went west.' あるいは意訳して，'went west to guard the border' と訳すしかない。尤も，英語のmilitiamanは，ある意味で屯田兵に近い。

次行の「裹頭」も，要解説の部類に入る。出征のために，黒い絹布で頭巾のように頭髪を包むことであるが，'wrapped the boy's head in a black silk cloth' と訳しても，出征時の習慣であることは，伝わらない。

「禾生隴畝無西東」は，'Millet would overgrow the farm and furrows would be hidden' のようになるであろうが，末尾のhiddenはリズムの関係でhidとした。

「被駆不異犬与鶏」は，直訳すれば 'They are driven like dogs or hens.' とでもなるであろうが，英語では，drivenされるのはdogs, hensではなくcattleである。ここでは，駆り出されることよりむしろ犬の如く扱われることに重きがあるのであろうから， 'treated like dogs' とした。

「旦如今年冬」の「如」はlikeを使いたくなるが，使うと散文的な表現になる。

「天陰雨湿」は， 'under the dark rainy sky' あるいは 'under the dark drizzling sky' と一纏まりの句に訳せそうであるが，これではweather reportになってしまう。 'under the dark sky' は詩に使えても，前者は散文にしか使えないところが難しい。また，日本語では，「(雨が) しとしとと降る」といった表現は，趣があるが，英語の 'drizzle' は，詩語としては使えない。 'drizzle' は，語源的にはともかくとしても，音感的には， 'sizzle' と同様echoicであり，一般的に言って，日本語の擬音語や擬態語は，文学的表現になり得ても，英語のそれは，幼児語 (baby talk, infant language) の延長と見なされ，日本語の場合ほど多用されない。

「聲啾啾」 'wails blow (in the rain)' と表現したいが，この表現が音声として表現されると，英語母国語話者には 'whales blow in the rain' と聞こえる。OEDやWebster^{3rd}に例文として上げられている 'there's weeping and wail' というのは，月並みな表現(cliche)で，面白くない。 'wailing' を使って， 'wailing is heard in the rain' とせざるをえない。

2.月夜憶舎弟　杜甫 (Thinking of My Younger Brothers on a Moonlit Night　Du Fu)

「邊秋一雁聲」の「邊」は，borderであるが，英訳では前置詞が問題になる。borderは通常on the borderの形で使われるが，ここでは雁が静止している訳ではないからalong, acrossのいずれかである。雁の動きを考えacrossを使った。

3.望月思親　白居易 (Thoughts of My Family While Gazing at the Moon　Bo Ju-yi)

「弟兄覇旅各西東」の「各」を生かして英訳すると， 'Each of my brothers dispersed...' あるいは， 'My brothers each dispersed...' となるが，eachとdispersetとはimcompatibleなので，英訳では 'All of my brothers dispersed...' となる。

「弔影分飛千里雁」の「分飛千里雁」のところは，散文的に訳せば， 'like a lonely wild goose flying thousands of miles away, seperated from its flock' といった風になろうが，群れからはずれて飛んでいる鳥は 'fly off course' を使って表現できる。

「辞根散作九秋蓬」の「蓬」は「風蓬」のことであるから， 'tumble-weed' が近似しているが，ただ，米人がこの語からまず描くイメージは， 'cowboys' と 'Indians' である。

4.絶代佳人　李　延年 (A Great Beauty　Li Yannien)

表題の「絶代佳人」を，'holy of holies, king of kings' などに倣って，'Beauty of Beauties' とすると，sillyな表現になり，詩の表題には不適。

「寧不知傾城代傾国」は，新約聖書(Matthew 13:45-46)の 'A pearl of great price' Again, the kingdom of heaven is like unto a merchant man, seeking goodly pearls: Who, when he had found one pearl of great price, went and sold all that he had, and bought it.に内容が似ているが，'A pearl of great price' は，聖書のイメージが強すぎる。

5.李夫人　漢武帝 (Li Furen　Han Wu-Di)

「是耶非耶」'Are you or aren't you?' とするとモダニズムの詩のようで魅力的(arresting)であるが，武帝が話し掛けているのが亡霊であることを考えると，'Are you here or aren't you' としたい。ところが，次行の 'I'm standing and looking for you.' の '... looking for you' と相容れなくなるので，'Is that you coming?' として，末行の 'But... how slowly you come!' と照合させたいのであるが，原詩では亡霊は几帳のなかに現れるだけで，近づいてくる訳ではないようであるから，'Is that you I see?' とした。末行の「其来遅」の「来」は，英語の 'appear' に近いと思われる。

「姍姍」は，女性が「なよなよ，あるいは（足許が定まらず）よろよろと歩くさま」であるから，ここでは　亡霊の女性らしい歩き方を描写していると同時に，纏足による影響（もし，漢代にあったとすれば）をも意味しているのであろう。'totters' 'walk unsteadily' などが考えられるが，これらは，酩酊状態の千鳥足を意味しても，決して女性らしさを含意するものではない。'walk jingerly' も考えられるが，さらに女性的（feminine）な歩き方を暗示する 'walk lightly' 使った。

6.落葉哀蟬曲　漢武帝 (The Song of the Falling Leaves　Han Wu-Di)

「羅袂兮無声」は，'The rustle of your silk sleeves is heard no more' としても良いが，alliterationを生かして，'...sleeves silenced.' とした。

「落葉依千重扃」は，「千重扃」も苦労した個所である。'The fallen leaves settle in heaps, locking doubly the gates' とすると，まことに拙劣(extremely awkward)になり，'relocking the gates' を考えたが，一体英語では，落ち葉が 'lock' を 'block' するという発想はありえないので，'fallen laves block the gates' と 'lock' を 'block' に変えることにした。そこで「千重」を表現するために，'blocking the locked gate' と訳した。この訳は，blockの音の中にlockが含まれていて，原詩の「重」と感覚的に似ているということで，今回の訳語の傑作のひとつであると自負している。

7.秋風辞　漢武帝 (The Song of Autumn Wind　Han Wu-Di)

「懐佳人」の「佳人」は，脈絡から考えて，‘my beloved lady’と訳したくなるが，かえってclumsyな表現になるので，単に‘my beloved’にする。

「楼船」は，対応する訳語がないらしい。「遊覧や，戦争に用いた2階造りのやぐらのある船」であるが，‘a ship with a turret(a tower)’という説明的な訳語は，注記に利用した方が良いであろう。

「少壮幾辞兮奈老何」OEDには，fleet:(of time) To pass rapidly and imperceptively という定義とTime may fleet, and youth may fade.という引用例があるので，fleetが使えそうであるが，現代英語では，たとえ詩においてもfleetをそのまま動詞として使うのは無理であり，fleetingという形容詞形が望ましい。しかし，fleetingを利用すると，後半もそれに合わせて，‘how surely age advances!’と納めたい。あるいは，fleeを使い，'How youth flees and how age advances!とする。

8.汾上驚秋　蘇廷 (The Autumnal Sounds on the Fen River　Su Ting)

「心緒逢揺落」の「逢」は，予め約束をして会うわけではないから，‘meet’ではなく‘see’である。

(平成2年1月31日受理)